

団順一先生のイヤモールド

立入哉

横浜市西神奈川にお住まいの団イヤモールド研究所・団順一先生が昨年十一月二十五日にお亡くなりになつておられたことを、つい最近、奥様からのお手紙で知りました。

実は一年、いつものようにイヤモールドの製造をお願いしたところ、「倒れてしまい、半身の自由がきかず、製造ができない」と聞いておりました。その後、一時、退院なさつたと聞いていたのですが…。

団先生が製造されるイヤモールドには定評があり、少々高かつたのですが、困ったときには「神頼み」のように、団先生に印象をお送りしておりました。

団先生が得意とされていたイヤモールド素材は「E-Compound」という素材で、

これは私が編集した「教育オーディオロジー実習テキスト」でも紹介しておりますが、非常に優れた材質のものでした。

シリコン系のイヤモールドの音道部表面に、非常に細かい硝子粒をコーティングするというものです。そもそもアメリカのあるメーカーが開発し特許を取つた

素材を、日本での製造を独占契約した素材と伺つておりました。ゆえに、先生が

製造にご不自由であれば、ぜひ、そのイヤモールド製造の技術を後世に継がせるべきと、長野県にお住まいの、イヤモールドに関心をお持ちの方をご紹介したい

とのお手紙を、何度もお出しさせていた

だいたのですが、結局お返事をいただけないままでした。

振り返れば、私が団先生のイヤモール

ー私は、快適に補聴器を装用するということこそ、必要な視点であつて、ハウリングが起きるから耳かけ型補聴器を避けるのでなく、ハウリングの解決を目指すことこそ、本来の筋と大いに反対したものです。

ある時、対立していた一派のもとから「そんなに言うのであれば、この子どもにハウリングのない耳かけ型補聴器用のイヤモールドを作つてみろ」と言わんば

と申せたのは、P11P, HA-58W, S20といったポケット型補聴器かむ、E28P, HB-72, HB-73という耳かけ型補聴器に大きく移行した頃でした。

当時は、多くの聴覚障害児たちが左右

の胸のポケットにポケット型補聴器を入れ、コードで耳のレシーバに音を入れて

おりました。当時の聴覚教育関連の研究会

では、「高度難聴には耳かけ型補聴器は

適切ではない。それは耳かけ型補聴器だ

とハウリングを止めることができず、結

局、必要な補聴ができないからだ」と説

明されていました。

かりに一組の親子の紹介を受けました。

事情を団先生に添え書きし、イヤモールドの製造をお願い致しました。見事にハウリングのないイヤモールドができあがり、高度難聴児への耳かけ型補聴器の装用が、急速に広まつたことを覚えていきます。

「E-Compound」というイヤモールド



E-Compound イヤモールド

は、そうした意味で、子どもの補聴器の選択を変えるだけのインパクトをもつたものでしたし、ハウリングの危険性がより高まる場合もあるデジタル補聴器の時代になつた今、団先生を失つたことは、これから聴覚障害児教育において、大きな痛手と思わざるを得ません。

詳しくは他誌にお任せするとして、団先生は元々ご家業が歯科医で、その関係で先生ご自身も歯学部に進学、その時に急に失聴。日本聾話学校を訪ね、そこで当時の大嶋功校長に会い、イヤモールド研究に開眼されたとのよう聞いておりました。

それ故でしょ。費用の点で、「どうしてもハウル」というような子どものイヤモールドばかり頼んでおりましたので、

振替通知書の封筒に細かな字で、子どもからイヤモールドが届くと、郵便情熱と、一徹な研究心に感動してしまった。イヤモールドは子どもに渡してしまって、手元にないと思っていたら、一個だけ再作になつた子どもの最初のイヤモールドが手元にありました。これを先生の形見と思い、先生の記憶と共に大事に大

る関心も高くなりましたが、印象材選びも慎重になつたりしました。

印象や印象材にはうるさい先生で、補聴器販売店からの製造依頼に対しても「この印象ではいいイヤモールドができるし、こんな印象しか取れないところには、うちのイヤモールドは出さない」とか、再作に対しても「印象の採り方が悪いので再作になるのは、製造の問題ではないので、再作であつても無料ではなく、有料」とおっしゃるなど、余り良い印象を持たれていない販売店の方も多いのではないかと思います。価格的にも卸値がなく、誰に対しても、どういうルートでも一個8000円を維持なさつておられたと記憶しています。

でも、私はそのイヤモールドに対する感情と、一徹な研究心に感動してしまった。イヤモールドは子どもに渡してしまって、手元にないと思っていたら、一個だけ再作になつた子どもの最初のイヤモールドが手元にありました。これを先生の形見と思い、先生の記憶と共に大事に大

事に持つていきたいと思います。

先生のイヤモールドで、ハウリングなく補聴器を使うことができるようになつた、多くの子どもたちの声も併せてお札を申し上げたいと思います。

たちいりはじめ

愛媛大学教育学部

助教授（障害児教育学）

本来ですなれば、「聴覚障害児教育功労賞」をお贈りすべきところです。しかし該当するような顕彰制度がないことを恥ずかしく思います。コトバで言い尽く

せない感謝の気持ちでいっぱいです。
×
×

※本稿は、立入先生が主宰する聴能情報誌「みみだより」第466号に掲載されたものに、一部加筆・修正を加えて本誌に提供戴いたものです。（編集部）

表紙のことば

葦茂る川辺

絵と文 大久保 紀次

子供の頃、夏になると赤フンドシ一つでよく泳いだ小槌川である。

河口に近い所だから潮の満ち干によつて水深が変る。泳いでいる最中、いつの間にか、足裏の石ころや砂の感触が覚束なくなつていてことに気付き、私たち子供は声をかけ合つて、それを家に帰る

の気配もする。

かつて、古里の自然が私たちに教えてくれたことは忘れられたが、その代わり、こうした静かな手付かずの自然を残してくれているのだと思いたい。

寝ころんで甲羅干しをした川原は今は葦が生い茂り、ときおり水面にざざ波たて過ぎる風には、こころなしかもう秋

(株)ヒヤリンクエイド・センター

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-28-1

福祉法指定店
認定補聴器専門店

メガネ耳穴挿入式、耳かけ、ポケット型、国産・外国製
補聴器は専門店で!!

- 聴力検査・適応調整無料
 - 団先生による耳型耳栓の製作
- 第4日曜日 13:00~17:00
TEL 03-3370-4361 FAX 03-3370-3138
営業時間 10:00~17:00(年中無休)

